

全国農政連推薦・県農政連公認
参議院議員藤木しんやの

永田町でも「百姓宣言」

「農家の経営安定に向けて全力」 「コロナウイルスを乗り越えるために」

世界中で猛威をふるう新型コロナウイルス感染拡大をふまえ、政府は、4月7日に緊急事態宣言を発令しました。この間、外出自粛の要請や公共施設などの休業に始まり、私たちの日常生活は一変しました。この緊急事態宣言は、当初5月6日を期限としていましたが、5月4日に期限の延長となりました。25日に全面解除となりましたが、依然として感染拡大防止に予断を許さない状況が続いています。

こうしたコロナウイルスの影響は農業分野でも深刻です。外出やイベント自粛などにより消費が低迷していること、農業現場での人材確保がさらに困難になっていること、花きや野菜は品目によって経営に大きな影響が出ています。これまで、自民党農林部会を中心に経済対策・補正予算の議論に取り組み、私は農水省でその実現に向けて取り組んできました。

足元の状況を乗り越え、経営安定に向けた2次補正予算の議論も進められています。江藤大臣にも農業者への支援を最優先に考えていただいています。農家の声を国政に届けるべく頑張りま

【農業・農村の価値を発信】

生活、経済の様式が変わり、WEBを利用した形態が一気に普及し、「ミニニケーション」のあり方も変化してきました。私たちが暮らしている地域、農村は、人と人のつながり、顔が見える関係を基本に豊かな暮らしが育まれてきました。今年は、田んぼで小学生が田植えをする風景や笑顔を見ることができず大変寂しく思います。一方で、都市部の過密した生活から、ゆとりある農村の暮らしの価値が見直されつつあります。農業の価値を一人でも多くの国民に理解してもらい、新たな基本計画の実践を通じて、農業、農村を次の世代にしっかりとつなげていかなければなりません。

こうした国難の時だからこそ、食料安全保障を声高に訴えていきます。



▲WEB会議で行う農水省コロナウイルス対策本部

全国・県農政連推薦

参議院議員山田としおの

農政問題に斬り込む

「困難を克服し、地域と農業と JAの復権を実現しよう」

「コロナ終息に全力を上げましょ」
皆さん、コロナ感染を防ぐべく大変な生活をお送りのことと思います。

罹患された方々や、亡くなられた方々、その家族の皆さんのご心配や悔しい思いはいかほどか、残念です。大人は何とか時を過ごせますが、子供たちの心身にどんな影響を与えることになるのか、心配が尽きません。

農業にも多くの影響があり、当然、私は、農政課題について各地からの要望実現に向け関係方面に働きかけを行っています。

【全く納得できない、

規制改革推進会議の動き】

コロナ拡大の情勢下、規制改革推進会議・農林水産ワーキンググループが開かれ、農業・農協批判が繰り返されています。とりわけ、コメの検査を廃止する等の提案は、カントリーエシペーターやライスセンター等による集出荷乾燥調製と一体となった仕組みを崩すことにつながり、JAを中心とする共同出荷販売を崩すことを狙いに行っていると受け止めざるを得ないのです。

コロナ問題で、世界の一部の国々からは、農産物の輸出を制限するとの報

道もあるなかで、食料自給率37%のわが国の食料の安定供給は大丈夫なのかこそ、まず心配すべきなのです。また各地で農作業を始めるにしても、人手が足りない、作付けの見通しが立たないとの声が上がっています。田畑を耕し、種をまくことが出発点なのに、それを逃すと1年の生活の糧を失うことになりかねないという時に、農業者やJAに不安を与える提言等は、絶対に容認できません。

だからこそ、これまでの長期にわたる規制改革推進会議を招集し、農業農協批判を繰り返す「政府関係者」「有識者」の皆さんが、相も変わらず、この困難な時期に、株式会社農協の参入、競争原理の導入、規模拡大等々の持論を主張することは、全く納得できないのです。農業・農協批判ではなく、「国民を、農業者を、子供たちを励ます」公言にしようじゃありませんか。

【農業と地域と協同の復権を実現しよう】

今こそ、季節に沿ってきちんと作物を作付けし、国内生産と供給を確保することが必要なのです。「海外から輸入したほうが安上がりだ」を持論とする学者を集めて、自分たちこそが先駆者だ、改革派だ、とする流れは、国の将来を誤ることになりかねません。

我が国の農業生産と、それを支える農業者やJAをはじめとする農業組織を基盤に据えて、何が出来るのか、何を大切にしなければならぬのか、しっかりと将来像を描かなければならないのです。